



園

所

の

安

全

編



このリーフレットでは、幼児・乳児・園児などのすべてを総称して、「子ども」と表しています。

園所では、「健康及び安全に配慮する」ことが大切です！

安全教育和安全管理を2つの柱として、日常の保育の中で安全な生活に必要な習慣等を身に付けることができるようにしたり、園所での生活が安全なものになるように、教職員の協力体制の下、環境の配慮や指導の工夫を行ったりすることが大切である。

安全教育

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

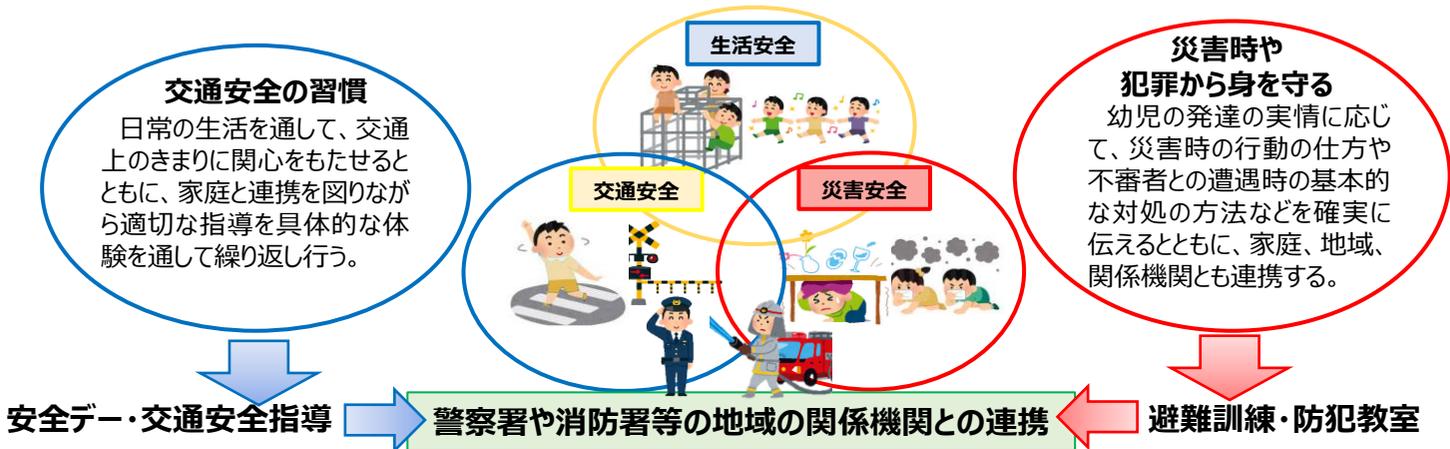
【ねらい及び内容 健康】

安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（文部科学省 学校安全資料）

【目標】

日常生活の場面で、危険な場所、危険な遊び方などが分かり、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けることができるようにする。また、災害時などの行動の仕方については、教職員や保護者の指示に従い行動できるようにするとともに、危険な状態を発見したときには教職員や保護者など近くの大人に伝えることができるようにする。

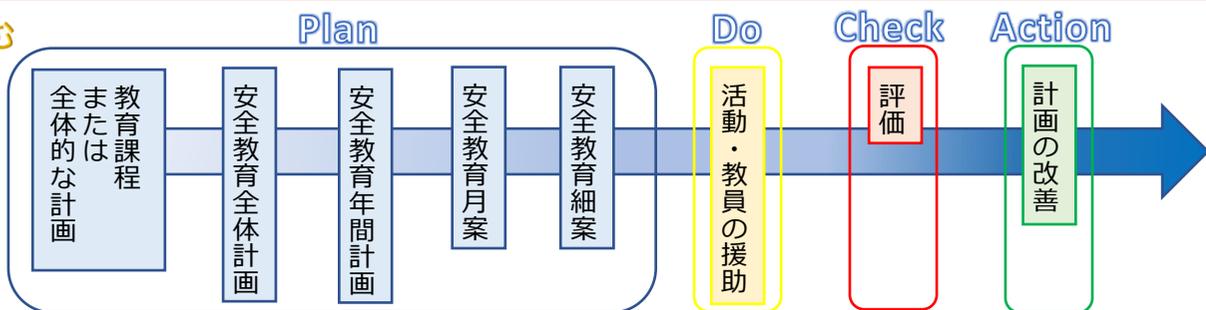


これがポイント！

幼児教育の基本としての、「遊びを通しての総合的な指導」、「環境を通して行う教育・保育」といった考え方を基に、総合的に展開される教育・保育活動の中で、安全教育を行いましょ。



園所全体で取り組む
安全教育の
計画って??



教育課程や全体的な計画を基に安全教育の細案を考え、活動・援助、評価、改善を行い、組織としてより良いものに改善していきましょう。

安全管理～園舎、園所外編～

不審者対応

- ・マニュアルに沿った対応



隙間の確認

- ・子どもが入れる隙間をつくらない



水分補給

- ・こまめな水分補給と確認



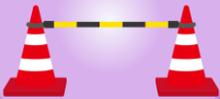
誤食対策

- ・調理室での除去食等の対応、確認



進入禁止場所

- ・進入禁止場所へ入らないように表示する



園庭

- ・滑り台や総合遊具等の上でふざけたり、危険な遊び方をしないように見守る
- ・複数の園庭がある場合、見守り体制の確認をする



テラスに出る時は…

- ・約束事を話し合い、決めておく



園所外への おでかけ

- ・下見では、事前に実際の指導と同じように行い、想定される危険をチェックし、道順や職員の配置を決定する



窓やテラスの手すり

- ・手すりの劣化の点検
- ・近くに土台になるものはないか
- ・転落の可能性はないか



こんな所に危険が！

これがポイント！

環境を整え、日々点検!!

事故の要因や危険を早期に発見し、速やかに除去しましょう。

AEDは定期的に点検し、適切な応急処置や安全措置ができるような体制を確立しておくことも大切です。

AEDの取り扱い方法や心肺蘇生法についても学び、備えましょう。



子どもと同じ高さで確認してみよう...

園バス

- ・乗車、降車の確認
- ・出席確認



門扉

- ・施錠の確認
- ・登園時は対面で子どもの引き渡し
- ・保護者のネームプレート着用依頼



プール

- ・監視体制を明確にし、子どもから目を離さない



階段

- ・滑り止めや手すりの設置
- ・上りと下りの表示



遊具

- ・経年劣化のチェック
- ・安全な使い方ができているか見守る



畑、樹木

- ・危険な虫に注意



植栽

- ・子どもの目の高さにある枝に注意



曲がり角

- ・出会いがしらの衝突に注意



事故等が発生する前に…

事前の安全管理

- ・危険箇所の把握
- ・危機管理マニュアルの作成、見直し
- ・日々の安全点検、情報共有
- ・職員の協力体制の確立
- ・対応訓練の実施

事故等が発生してしまったら…

- ・当日出勤している教職員の役割分担を理解し、行動する
- ・迅速に丁寧に最善を尽くす!!

発生時の対応①

- ・安全確保
- ・応急処置（心肺蘇生）
- ・必要であれば119番通報
- ・状況の把握
- ・保護者、管理職等への報告



安全管理とは、事故の要因となる園所の環境や子どもの園所での生活における行動等の危険を早期に発見し、それらの危険を速やかに除去するとともに、万が一、事故等が発生した場合に、適切な応急手当や安全措置ができるような体制を確立して、子どもの安全の確保を図るようにすることです。

安全管理～保育室編～

●印には特に危険が潜んでいます!!

机や棚の角
・コーナーガードをつける



小さいおもちゃ

- ・誤飲、誤嚥、窒息の可能性があるおもちゃは、手の届かない場所で保管し、使う時は保育者と一緒に遊ぶ
- ・すぐに確認できるような収納の工夫



はさみ・テープカッター台
・安全な使い方を指導する



机・椅子

- ・高く積み上げすぎない
- ・置き場所にも注意



キャスター付きの台
・固定時は、必ずストッパーで動かないようにする



マット

- ・清潔に保つ



手洗い場
・床が濡れている時は、すぐに拭く

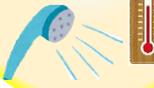


アイロン、ミナーター、裁縫道具

- ・危険を伴う道具は、保育室に持ち込まない



沐浴、シャワー
・事前の温度確認
・沐浴やシャワー中は、子どものそばから離れない

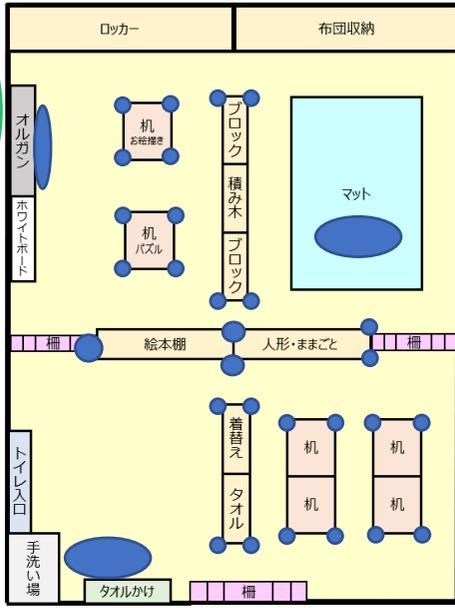


活動を思い浮かべてチェック!

これがポイント!

子どもは大人の想定外の行動をするものです。これだけやれば、けがが起こらないということはありません。常にいろいろな場所に危険が潜んでいると意識して、子どもがどのように過ごしているのかをよく見ておくことが大切です。そして気付きを園所で共有し、組織として安全管理の意識を高め合ひましょう。

乳児保育室



棚

- ・棚と棚の間を開けない
- ・子どもが入れないように隙間をふさぐ



床

- ・常に清潔に保つ
- ・落ちているものはすぐに拾う
- ・損傷、デコボコがないか確認する
- ・滑らないように注意する



電子ピアノ

- ・使わない時は、蓋を閉める
- ・転倒防止対策をしておく



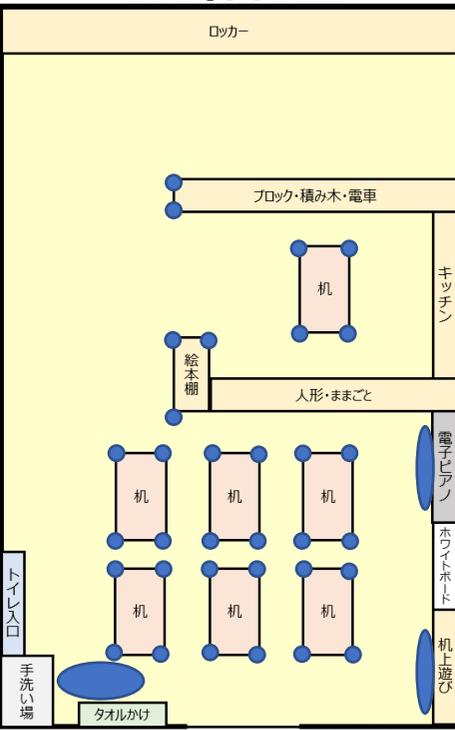
ドア、柵の開閉

- ・開閉時に子どもの指を挟まないように気をつける



学級全体での活動時

幼児保育室



転倒防止策

- ・地震発生時に棚等が倒れないように固定する



室内の空気

- ・適切に換気を行い、温度、湿度を適切に保つ



食事(乳児)

- ・食べ物の硬さや大きさ、量、食べさせ方を考える(窒息に注意)



視覚支援

- ・遊具、用具の整え方がわかる視覚支援



誤食対策

- ・アレルギー対応が必要な子どもの誤食を防ぐ工夫
- ・視覚的な工夫
- ・複数の職員でのチェック



健康チェック

- ・毎朝登園時に、健康チェックを行う



毎日の確認が大切!!

心のケア

強い恐怖や衝撃を受けた場合、不安や不眠のストレス症状だけでなく、腹痛、嘔吐、食欲不振、頭痛などの身体症状が現れやすく、情緒不安定や行動上の異常などの症状が出現しやすい。基本的な対応としては、ふだんと変わらない接し方で、本人に安心感を与えることが大切です。優しい言葉掛けを増やし、安心できるように配慮をしましょう。

発生時の対応②

- ・発生時の状況や経過の記録(メモだけでなく、写真や動画も)
- ・事故に遭った子ども以外の教育、保育の継続
- ・保護者への子どもの引き渡し

発生後の対応

- ・再発防止に向けた取り組み
- ・関係機関への報告
- ・心のケア

コラム「ヒヤリ・ハット」

みなさんは「ヒヤリ・ハット」という言葉を知っていますか。重大な1件の事故の裏には、軽微な29件の事故、そして、ヒヤリ・ハットに該当する300件の事案が起こっているというハインリッヒの法則（1：29：300の法則）があります。ある保育者が、ヒヤリ・ハットを意識することの大切さに気付いたこんな場面がありました。

設定保育の時間に、5歳児が絵の具を使って製作をしていた時のことです。子どもたち全員が一斉に絵を描けるように、教員は机をたくさん並べて、環境を構成し、子どもたちは椅子に座って画用紙に絵を描いていました。

少し時間が過ぎたころ、絵の具のカップを持って、歩き始めた子どもがいました。「先生、絵の具ちょうだい。」と言って、追加の絵の具をもらうために、教員に近づいてきました。通路が狭く、絵を描いている友達に当たらないように気を付けて歩いていたので、その子どもはとても歩きにくそうでした。「通れているから大丈夫。」と教員は考え、絵の具をカップに追加した後、子どもたちの様子を見守っていました。

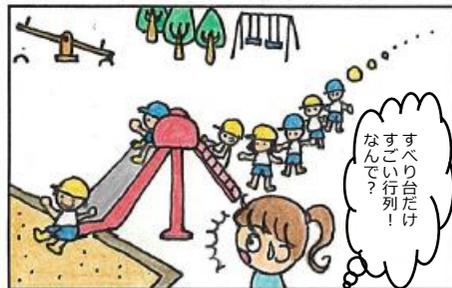
しばらくすると、先ほどの絵の具をもらう様子を見ていた子どもたちが、「先生、私も絵の具欲しい。」と言って、子どもが次々と歩き始めたのです。一人でも歩きにくかった通路を、複数の子も歩いたことで、一気に大混乱！絵を描いている友達にぶつかってしまう子どももいれば、転んでしまった子どももいます。絵の具のカップを持っていたため、一人の子どもは、転んだ時にうまく手をつけず、顎を打ってしまいました。

最初に絵の具をもらいに来た子どもがいた時に、絵の具が少なかったことに気がついて、先に、みんなの絵の具を増やしていれば、結末は違っていたはずでした。保育を進めることで、頭がいっぱいになっていましたが、優先すべきは、子どもが安全に過ごすことができる環境を構成することでした。

子どもの安全が最優先であることを意識し、ヒヤリ・ハットの再発防止に努めることが、重大事故や軽微な事故を未然に防ぐために大切です。また、ヒヤリ・ハットの気付きを園所の全員で共有することで、園所全体の安全管理意識が高まります。一人の気付きを積極的に全体へ広げていきましょう。

こんな経験ありませんか？

『先生は一生懸命！』



これがポイント！

保育者一人ひとりはもちろんのこと、園所職員全員で安全管理を徹底することは何よりも大切です。その上で、幼児（園児）が日常生活において十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ中で、危険な場所、もの、状況を知ったり、そのときにどうしたらよいかなど、体験を通して身に付けていけるように、保育者は保育計画を立てましょう。

参考資料

幼稚園教育要領



幼保連携型認定こども園教育・保育要領



保育所保育指針



「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育



幼稚園教育要領解説



幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説



教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン



大阪府教育センターにあります！

幼稚園新規採用教員研修・幼稚園10年経験者研修の園内研修の指導案を置いています。また、制作・リズム遊び・楽器遊び・運動会に向けて等、様々な活動内容の資料が見られます。

大阪府幼児教育センター

〒558-0011

大阪市住吉区苅田4丁目13番23号
(大阪府教育センター内)

TEL 06-6692-1882 (代表)

URL <https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/index.html>